

2019年度 事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

学校法人敬和学園

敬和学園大学

敬和学園高等学校

I. 法人の概要 (2019年3月31日現在)

1. 理事長 榎本 榮次

2. 設置学校及び所在地

敬和学園大学 新潟県新発田市富塚字三賀境 1270 番地

敬和学園高等学校 新潟県新潟市北区太夫浜 325 番地

3. 敬和学園の設立目的

この法人は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に従い、福音主義のキリスト教精神に基づいて、敬虔な思いと真理による自由と愛とをもち、国際的現代社会に対する広い見識をもつ有為な人物を育成し、人類と福祉と文化の発展に寄与することを目的とする。

4. 設立の背景・沿革

新潟市開港 100 年記念の事業の一環として県市より土地が提供され、新潟県下の日本基督教団所属の教会をはじめ、内外にわたる教会の支援を受け 1968 年 4 月、日本基督教団立として敬和学園高校が創立された。敬和学園の「敬」は神への畏敬を、「和」は隣人愛を基盤とする人の和、さらには地球的規模に拡大して平和を意味している。

以来、故太田俊雄初代校長が礎を築き、ユニークな校風を生み出してきた敬和学園の教育理念は、1991 年 4 月、新発田市・聖籠町に創立された敬和学園大学の教育に引き継がれている。

敬和学園の沿革		
1963年	11月	新潟キリスト教主義高等学校設立準備委員会発足
1966年	7月	日本基督教団第9回常議員会にて、新潟キリスト教主義高等学校設置を議決
1967年	1月	新潟キリスト教主義高等学校設立準備委員会にて、高等学校名を「敬和学園」と命名
	6月	第1回理事会開催 初代理事長に北村徳太郎就任
	8月	新潟県、新潟市より高等学校校地無償提供
	11月	寄附行為認可（敬和学園創立）
	12月	法人登記完了
1968年	3月	敬和学園高等学校設置認可
	4月	敬和学園高等学校 初代校長に太田俊雄就任 敬和学園高等学校開校式、献堂式 敬和学園高等学校第1回入学式
	12月	敬和学園 2代目理事長に大村勇就任

敬 和 学 園 の 沿 革		
1976年	10月	敬和学園 3代目理事長に武藤富男就任
1977年	11月	敬和学園高等学校創立10周年記念式典
1982年	4月	敬和学園 4代目理事長に高橋勝就任
1984年	4月	敬和学園高等学校 2代目校長にジョン・モス就任
1986年	10月	理事会・評議員会で敬和学園大学設立を議決
1987年	11月	敬和学園高等学校創立20周年記念式典
1989年	1月	敬和学園 5代目理事長に後宮俊夫就任
1990年	4月	敬和学園高等学校 3代目校長に榎本榮次就任
	12月	大学設置認可（人文学部 英語英米文学科、国際文化学科）
1991年	4月	敬和学園大学 初代学長に北垣宗治就任 敬和学園大学第1回入学式 敬和学園大学開学式
1993年	4月	敬和学園大学人文学部英語英米文学科に教職課程（英語）設置
1997年	11月	敬和学園大学体育館新築・講義棟増築献堂式
1998年	1月	敬和学園高校チャペル完成・初礼拝
	6月	敬和学園高等学校創立30周年記念式典
2000年	9月	敬和学園大学人文社会科学研究所設置
2001年	4月	敬和学園大学創立10周年記念式典
2003年	4月	敬和学園大学 2代目学長に新井明就任 敬和学園高等学校 4代目校長に小西二巳夫就任 敬和学園大学 大学基準協会に正会員として加盟
	5月	敬和学園大学人文学部共生社会学科設置認可
2004年	4月	敬和学園大学人文学部に共生社会学科設置 敬和学園大学人文学部共生社会学科に社会福祉士国家試験受験資格課程を設置 敬和学園大学人文学部英語英米文学科を英語文化コミュニケーション学科に名称変更
2005年	4月	敬和学園大学人文学部国際文化学科に教職課程（公民）設置
	10月	敬和学園大学創立15周年記念セミナー
	11月	敬和学園大学創立15周年記念講演会
2006年	4月	敬和学園大学人文学部国際文化学科に教職課程（社会）設置
	11月	まちの駅よろず「新発田学研究センター」開設
2007年	1月	敬和学園高等学校 新ホール「友愛館」竣工
	11月	敬和学園高等学校創立40周年記念礼拝
2008年	3月	敬和学園大学 大学基準協会の大学評価により「適合」の認定を受ける
2009年	4月	敬和学園大学 3代目学長に鈴木佳秀就任
2010年	3月	敬和学園大学ピロティ改修
	10月	敬和学園大学創立20周年記念式典
	12月	敬和学園大学アーチェリーレンジ竣工
2011年	4月	敬和学園 6代目理事長に大宮溥就任
2012年	4月	敬和学園大学人文学部国際文化学科に教職課程（地理歴史）設置

敬 和 学 園 の 沿 革		
2015年	3月	敬和学園大学 大学基準協会の大学評価（第2期）により「適合」の認定を受ける
	4月	敬和学園大学 英語文化コミュニケーション学科の定員を80人から60人に変更
	5月	敬和学園 7代目理事長に小西二巳夫就任
	6月	敬和学園大学 4代目学長に山田耕太就任
2016年	4月	敬和学園大学 学生寮開設
2017年	2月	敬和学園大学 ラーニングcommons開設
	9月	敬和学園法人・高校創立50周年、大学創立25周年記念式典
	10月	敬和学園創立50周年事業、宗教改革500周年記念講演&オルガンコンサート
2018年	4月	敬和学園 8代目理事長に榎本榮次就任 敬和学園高等学校 5代目校長に中塚詠子就任

5. 設置する学校の入学定員・収容定員・在学者数

(2019年5月1日現在 学校基本調査より)

学 校 名			入学定員	収容定員	在学者数
敬和学園大学	人文学部	英語文化コミュニケーション学科	60名	240名	223名
		国際文化学科	80名	320名	336名
		共生社会学科	40名	160名	108名
		計	180名	720名	667名
敬和学園高等学校	全日制課程	普通科	200名	600名	631名

6. 役員・評議員・教職員の概要

(1) 役 員

(2020年3月31日現在)

定数：理事 13名、監事 3名

区 分	氏 名	常 勤・ 非常勤の別	適 要
理 事 長 (7号理事)	榎 本 榮 次	非常勤	2015年4月1日就任 2018年4月1日理事長就任
1号理事	山 田 耕 太	常 勤	2003年4月1日就任 2015年5月28日常務理事就任
2号理事	中 塚 詠 子	常 勤	2017年4月1日就任 2018年5月28日常務理事就任
3号理事	下 田 尾 治 郎	常 勤	2015年6月1日就任
3号理事	宇 田 川 潔	非常勤	2001年4月1日就任 2015年5月28日副理事長・常務理事就任

区分	氏名	常勤・非常勤の別	適要
3号理事	小田中 肇	常勤	2018年4月1日就任
4号理事	熊江 秀一	非常勤	2017年4月1日就任
4号理事	福井 博文	非常勤	2013年4月1日就任
4号理事	長倉 望	非常勤	2013年4月1日就任
5号理事	横山 由美子	非常勤	2014年4月1日就任
6号理事	近 伸之	非常勤	2011年4月1日就任
7号理事	東 晴也	常勤	2016年4月1日就任
7号理事	高田 清太郎	非常勤	2019年4月1日就任
監事	吉澤 昭男	非常勤	2002年5月31日就任
監事	佐藤 哲也	非常勤	2009年5月28日就任
監事	渡辺 明紀	非常勤	2017年4月1日就任

(2) 評議員

(2020年3月31日現在)

定数：27名

区分	氏名	区分	氏名
第1号評議員	東 晴也	第1号評議員	佐藤 健一郎
第1号評議員	小田中 肇	第1号評議員	趙 晤衍
第1号評議員	下田尾 治郎	第1号評議員	金山 愛子
第2号評議員	川村 雅子	第2号評議員	樋沢 康博
第2号評議員	上田 晋三	第2号評議員	長北 博
第2号評議員	近 伸之	第2号評議員	鈴木 貴之
第3号評議員	本間 彊	第3号評議員	清水 明次
第3号評議員	横山 由美子	第4号評議員	辻元 秀夫
第4号評議員	手束 信吾	第4号評議員	片岡 謁也
第4号評議員	高澤 大介	第4号評議員	熊江 秀一
第4号評議員	宇田川 潔	第4号評議員	田中 美香
第4号評議員	鷹澤 昭一	第4号評議員	大崎 秀子
第4号評議員	比企 広正	第4号評議員	小竹 城
第4号評議員	太田 信弘		

(3) 教職員数 (2019年5月1日現在)

① 法人

専任職員 2名

② 大学

専任教員	26名	専任職員	19名
特任教員	2名	任期付専任職員	2名
契約講師	2名	嘱託職員	5名
客員教員	1名	臨時職員	2名
非常勤講師	57名	非常勤職員	8名
合計	88名	合計	36名

③ 高等学校

教諭	33名	専任職員	25名
助教諭	5名	嘱託職員	8名
常勤講師	10名	臨時職員	6名
非常勤講師	5名		
合計	53名	合計	39名

Ⅱ．事業の概要

理事長 榎本 榮次

学校法人敬和学園の2019年度の事業概要を報告します。

1. 法人

2019年度は、大学、高校共に課題を抱えつつも守られて年度を超すことができました。年度末には、新型コロナウイルスに見舞われ、未曾有の災禍を耐え偲んでいます。その中でもそれぞれに豊かな歩みをすることができました。神様の導きと建学の精神「敬神愛人」のもと教職員の努力と皆さまのご協力に深く感謝します。

わたしたち理事会に託された懸案事項の最も大きな課題は、運営の健全化と学生、生徒数の確保です。高校、大学共に学生数の確保により学園全体の経済状況を好転させることが急務です。19年度は高校・大学共に定員を上回る生徒・学生を迎え入れることができました。20年度に向けても同じような見通しが立っています。

定員を下回る状況が続くことは財政的危機を招き、法人全体にも大きな影響を及ぼします。大学は19年前から定員割れの状況を自覚しつつ様々な取り組みを続けてきました。その努力が少しずつ実りを見ていることを共に評価したいと思います。

とはいえ、楽観は許せません。財政の見通しの暗さと学生・生徒数の不安定さには、さらに厳しいものがあります。それに加えて高校において退学者を異常に多く出さなければならぬ結果が出ていることも見逃せません。さらに加えてウィルスの災禍は世界的で、私学の存立を脅かしています。

敬和の教育に対する地域からの信頼は年々深まっており、良心的な教育を行うことへの認識は確実に広がっています。そうした教育本来の評価が高くなっているにもかかわらず、それが入学者数の回復や退学者を無くすということに十分に連動していないことに教職員の歯がゆさや無念さがあります。並々ならぬ決意のもとエネルギーを注いで、生徒・学生一人ひとりを大切にする取り組みがなされていますが、このままでは未来に暗いものがあります。新しい方向性と取り組みが求められます。

入学者が定員を恒常的に割る傾向は敬和学園だけに限らず、地方の小規模私立大学、高校の持つ一般的な状況です。敬和教育を教職員はもとより、生徒同士の教育力に根差しつつ、他の学園とは一味違う独自性をさらに追及しなければなりません。

「キリスト教主義に基づく人格教育」「一人ひとりを大切に」「少人数教育の徹底」「リベラルアーツ」「アクティブラーニング」「労作教育」「7年高大一貫教育」これらを共通の理念とし、さらに強化する必要があります。

地方の小規模学園の抱える厳しい状況の中で、敬和学園はよく頑張っていると評価を得ています。ほかにも安定した運営を可能にしている学園もいくつか見られます。そこに共通しているのは組織改革がしっかりされていることです。教員組織と職員組織が良い関係が

保たれています。それによって組織が機能的に働き、対応する原動力になっていきます。大学においても、高校においても職場での混乱がいくつか見られます。職場の民主化や、自浄作用が求められます。

財政面において、学内の諸経費の節減で赤字を減らす努力は欠かせません。昨年度は、多額の赤字を出してしまいました。高校で4,000万円、大学で1億1,000万円の赤字を出しています。原因はいろいろありますが、人件費の肥大化、退学による生徒数の減少、また金融市場の不安定が挙げられます。なんとしてもこの赤字幅を小さくしなければなりません。

高校においては、中学生の生徒数の減少と、公立志向への傾きが今までとは違う傾向を見せています。安定した生徒の確保は必至です。わたしたちの武器とするのは、敬和教育の伝統と高校から大学への「7年一貫教育」です。これについて生徒も職員もしっかりとした意識を持つようにすることがさらに必要です。高校と大学が同じ理念に立ち協力しながら歩みたいと願います。秋の職員研修会はその良い機会となりました。そのほか授業やクラブ活動での連携が実を結んでいます。

敬和学園は、キリスト教学校教育同盟の傘下であり、関係の大学への推薦の道筋は大きな力です。連携を強めながらさらに太いパイプとしていきたいと思えます。

2019年は「天皇の代替わり」の年でした。年号が平成から令和に変わり、10月22日には神道儀式による天皇の即位の礼が行われました。この日は国民祝日とされ、学校も休日になりました。しかし敬和学園はこの日を登校日としました。新しい天皇が、国民から尊敬され、祝福され即位されることを願います。しかしながら尊敬されることは神になることではありません。神道儀式における即位式は天皇を神格化する儀式であり、ここには大きな問題があるからです。かつて日本が天皇を神格化することにより、上のことには一切反対を許さない絶対服従の国家へと導きました。そしてついに侵略戦争へと進ませた大きな間違いがありました。学校では、子どもたちを「絶対服従」「考えない国民」へと仕立て上げました。キリスト教学校も真理に目を閉ざし、右に倣えとなったのでした。現憲法では、その反省に立ち同じ過ちを繰り返さないために、主権在民を基本とし、天皇を「国民の象徴」と規定しています。

即位の礼に当たり、キリスト教学校として無意識に通り過ぎることは許されません。しっかりとした姿勢をとることは学生・生徒に対する責任と考えます。即位の儀式の行われた10月22日は、平常授業を粛々として行いました。皆様のご理解を得て何の混乱も見られませんでした。

創立期にかかわった教師の退職により、敬和教育の一つの壁にぶつかっているように感じます。高校と大学が、ある意味で大きな危機に直面しています。しかしそれはまた新しい革袋へのチャンスです。ぶつかっている危機が分裂や弱体の原因になるのではなく、そこから太い絆を作ることが求められます。「7年かけて地域に生きる人づくりをする」という理念に立ち、協力しながら歩まなければなりません。

敬和学園の教育のために募金にご協力くださった内外からの多くの方々に心から感謝いたします。教職員の皆様にも大きなご協力をいただきました。学内募金 5,000 万円を目標としましたが、残念ながらこれには遠く及びませんでした。私学は寄付が大きな柱です。これからもさらなるご協力をお願いします。

最後に、「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練には遭わせることはなさらず、試練と共にそれに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」（コリント信徒への手紙一、10：13）。パウロのこの言葉に耳を傾けたいと思います。

19 年度末から 20 年度にかけて新型ウイルスによる被害は予想をはるかに超えて深刻です。高校では 3 月から登校できない状態が続いています。ここから受ける経済的負担は予想がつきません。授業の不成立、学納金、バス、給食、寮などの問題。学生の生活も厳しいことでしょう。生徒の家庭に負担をかけすぎないように配慮しつつ進めていきたいと願います。

敬和学園の 50 年余の歴史の中で、創立時から次々と「どうしてこんなことが」と思われる困難な出来事とぶつかりながら歩んできています。しかし必ずそこに「逃れる道が備えられ」ていました。そこからまた新しい希望が見えてきたのです。必ず道は開かれます。そのことを信じつつ歩んでいきましょう。

以下に大学と高校のそれぞれの報告をいたします。

2. 大 学

大学では、開学以来、キリスト教主義に基づいた「リベラルアーツ教育」を重点においてきました。

(1) 教学・学生支援

「実践するリベラルアーツ教育」に相応しい人物の育成のために、2016年度に「学生寮」を開寮して、4年目の2019年度は39名の寮生で寮運営をしました。「学生寮」は、同じく2016年度にオープンした隣接する「新発田市立図書館」を含めた複合施設「イクネスしばた」と共に、魅力的な施設となっています。また、本学は前年度に引き続き「イクネスしばた」との共催イベントも複数回開催しました。

「まちカフェ・りんく」は、2019年9月末を以って、11年余りに渡ったコミュニティカフェとしての役割を終え、今後は、研究を通じて地域連携を行う「まちラボ」、学生団体の活動拠点としての「まちスタ」との名称で新しい取り組みを企画・準備して、2019年度はその一環として、防災を学ぼう「ニゲルネス」を開催しました。

この他、新潟大学を中心にしたCOC+事業の最終年度に、継続して参加校としての活動をしました。

英語文化コミュニケーション学科及び国際文化学科の教職課程は、2018年度に再課

程認定申請をして認可を受け、2019年度から新課程を開設しました。更に2019年度から国際文化学科に「情報メディア・コース」を新設して、3コース制から4コース制に移行しました。なお、「情報メディア・コース」は20名の履修学生で、順調にスタートしました。

また、2015年度に「学生支援センター」を開所し、生活・学習・就職などにおいて困難を抱えている学生を支える仕組みを構築してきましたが、2019年度は学内外の諸機関とも連携して、組織的に学生を支援する体制を強化しました。併せて、年度内の除籍者を含む退学率を4%以内に収めるよう、関連部署において退学防止に取り組みましたが、結果として5.8%(39名)となり、昨年度の比率5.7%(33名)を上回りましたので、引き続き具体的な対策を検討して対応していきます。

(2) 就職

就職を希望する学生を分母とした内定率が98.8%となり、2015年度以降5年連続で95%を上回ることが出来ましたが、卒業生を分母とする就職率が69.8%と目標値に大きく届きませんでした。2019年度の卒業生は3年次のガイダンスである「キャリア開発1、2」の履修状況が悪く、原因は売り手市場の影響ではないかと分析していましたが、学生たちの就労意欲の低さが原因であったのかもしれませんが、学年全体の雰囲気は早めに関心を取り、適切な対応が必要な事を痛感しました。

キャリア教育に関しては、前年度に続き1年次前期の「基礎ゼミガイダンス」、後期入門演習時に行う「自己分析ガイダンス(『ジョハリの窓』を使って)」、2年次前期の「就職ガイダンス(自己理解ワーク)」、後期の「キャリア開発入門」、3年次の「キャリア開発1、2」と入学から就職活動までの継続的なサポート体制を維持できました。しかしながら、選択科目である「キャリア開発入門」の履修者が目標値に達しなかった為、その点が課題として残りました。

また、就職支援の一貫として行っている授業科目「ビジネスマナー講座(秘書検定対策)」「SPI対策」は2019年度も多く多くの学生達に学ぶ機会を提供できました。今後も継続して両科目の履修を推奨していきたいと考えております。

【2019年度 就職状況】

(2020年5月1日現在)

就職率 69.8%、就職内定率 98.8%、就職者数 81名、進学者数 2名

主な就職先

(株)アイエスエフネット、アクシアルリテイリング(株)、(株)アクティオ、(福)いきいき福祉会、(株)クスリのアオキ、(株)コメリ、新発田市役所、しばたパッカーズ(株)、SOMPOケア(株)、(株)第四銀行、東海興業(株)、東京都特別区、トップ工業(株)、トヨタモビリティ

東京(株)、中日本信和(株)、(株)ナンバ、新潟市中学校教諭、(株)新潟ジャムコ、新潟総合警備保障(株)、新津さつき農業協同組合、(株)ハードオフコーポレーション、(株)はあとふるあたご、(株)ビッグモーター、(株)ビップ、(株)プロメディア新潟、丸三証券(株)、(株)丸杉、宮島石油販売(株)、山形おきたま農業協同組合、リコージャパン(株) 他

(3) 広報・入試

2020年度入学者は214名と、入学定員を超過する学生(秋入試含む)を3年連続で確保することができました。しかしながら、学科別では、国際文化学科116名(充足率145.0%)、共生社会学科40名(充足率100.0%)と定員を達成したことに対し、英語文化コミュニケーション学科は58名(充足率96.7%)と定員に達することができませんでした。法人間では、高校からの入学者は44名と大幅に増えたものの目標の50名に届きませんでした。

2019年度は、前年の反省を踏まえ、敬和学園高校との連携をより強化し同法人からの入学者増を大きな目標としました。この目標に対しては、広報入試の担当職員だけではなく、学長、局長、校長、事務長をはじめとした法人全体で取り組みました。この結果、敬和学園高校3年生のオープンキャンパス参加は前年比19%増の56名、そのうち36名(入学率64.3%)が入学手続きをするという大きな増加につながりました。

全体としては、SNSによる広告展開や各種ガイダンスなどでの丁寧な個別アプローチを行いました。資料請求者数(全体)は、2,526名(前年比-5.8%)と減少しました。資料を請求するよりもWebページで大学の内容を確認するということにシフトしているのかもしれない。一方、オープンキャンパスおよび英検講座の参加者数は、敬和学園高校以外の高校3年生で、176人(前年比+10%)であり、出願率50.0%(前年比-1.3%)、入学率44.9%(+3.0%)と若干の増減はありましたが高い数値を維持することができました。入学者214人のうち実に115名(53.7%)がオープンキャンパス参加者でした。また、保護者や高校2年生以下の生徒等を含めた1回あたりのオープンキャンパス申込者数が、8月に220名を超え、大学の収容キャパシティ(主に学食)を超えました。敬和学園大学らしい一人ひとりを大切に作る姿勢を実際に体験していただくことで、歩留まりが高まっています。また、オープンキャンパス後には、各高校に写真が掲載された個別の資料を持参し、卒業生の成長した姿を進路指導の先生や元担任の先生方に伝えました。

入試別では、一般高校の推薦入試1期、AO入試1~3期の出願者数は81名(前年82名)と前年と同様の数字となり、本学を第一希望とする受験生を安定的に確保することができました。また、他校との競合となる一般入試において、一般高校からの出願者が230名(前年比113.9%)と昨年から引き続いて増加しており、定員厳格化の影響の中にあって、第一希望の大学と併せて出願される大学として認知されているといえます。

学科ごとの入学者数では、2020年度共生社会学科が5年ぶりに定員確保しました。2019年度は、社会福祉士合格率の向上、新コース「ソーシャルビジネス」のアピールを2本柱

にしておりましたが、残念ながら社会福祉士の合格者（在学者・卒業生含む）は0名でした。そのような状況下でも定員を確保できたのは、敬和学園高校からの入学者増によるものが大きかったです。英語文化コミュニケーション学科については、同じくグローバル志向の受験生が集まる国際文化学科と大きく水をあけられています。グローバルな学びを期待する受験生にとっては、国際文化学科の方が多様な学びができるように映るようです。

入学者アンケートでは、新潟大学（14名）や新潟県立大学（16名）、新潟国際情報大学（12名）の不合格者の入学が目立ちました。非入学者アンケートにおいて他大学を選んだ理由については、「就職先・就職率・資格」が多かったです。入学者・非入学者アンケートとも、本学の「リベラルアーツ教育」に魅力を感じてくれた受験生が多かった一方、「トイレが汚い、古い」などの施設・設備に対する不満がありました。入学者アンケートでは「連絡が遅い」「書類の間違が多い」といった入学後の事務対応に対する不満が目立ちました。アンケートからは、①就職が一層厳しくなる状況下においても就職率を高めていくこと、②入学後の事務対応を適切に行い学生満足度を高める（退学者を減らす）こと、③学納金収入が見込める中で早急に施設設備の改善をすすめることの3点が求められます。

（4）財政

2019年度決算において、事業活動収入から事業活動支出を差し引いた「基本金組入前当年度収支差額」は1億1千万円の支出超過となりました。これは、当初予算より約4千万円、前年度決算より約2千万円、支出超過は増額しています。その主な原因は、奨学金が増加したことと、有価証券の評価換えにより評価損を約5千万円計上したことによるものです。奨学金は、奨学金の採用者数が予算人数を上回ったためです。有価証券については、マイナス金利やコロナウイルス感染拡大による株式市場下落の影響を受けたため、年度末時価が簿価の50%以上低くなった保有債券の評価換えを行いました。

また、本年度も、収支改善のために人件費や経費の削減を予算に盛り込み、合計で約3千万円の支出削減を実施しました。削減努力の結果、有価証券評価差額などの特別な支出を除く経常的な収支の差額は、当初予算の支出超過額の範囲内となりました。しかしながら、中期計画「2017年度経営方針」に掲げた第一目標である支出超過額5千万円以内を達成することはできませんでした。

決算により、本年度末の保有資金は13億1千万円、前年度末に比べて約6千万円減少しました。減少は支出超過の影響ですが、次年度入学者の増加による学納金前受金収入の増額もあり、減少幅は抑えることができました。ここ数年保有資金は減少傾向にありますが、大学運営に必要な資金としては十分確保できています。

一方、新年度予算の収支見通しは、収容定員を超える総学生数により学納金収入が大幅な増収となるため、現段階では黒字に近づく収支改善が見込まれています。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により予算外の支出が発生しています。感染防止対策や遠隔授業・

会議実施に必要な施設設備の費用などが上がってきており、また、経済的に影響を受けている学生への支援も検討しなければなりません。学生の就職活動や学生募集も例年どおり進めることは難しい状況です。新型コロナウイルス問題の長期的な影響も踏まえながら、様々な事態を想定し、必要な財政対策を講じていきたいと考えております。

(5) 2019年度 卒業者数 (9月卒業者含む)

英語文化コミュニケーション学科	37名
国際文化学科	61名
共生社会学科	23名
合計	121名

(6) 地域連携活動 (新発田市・聖籠町関係)

【前期】

- ・4月13、14日 さくらまつり出店 (新発田城址公園)
- ・4月18、19日 新入生オリエンテーション (新発田市月岡温泉)
- ・5月12日 新発田市職員採用試験教室貸出
- ・5月19日 駅前マルシェ (JR新発田駅前)
- ・6月6日～19日 JCLP (Japanese Culture and Language Program、敬和学園大学他)
- ・6月8日 聖籠町図書館5周年記念イベント (聖籠町立図書館)
- ・6月22日 あやめまつり出店 (新発田市五十公野公園)
- ・7月3日 国際理解教育 (住吉小学校)
- ・6月30日 映画「彼らが本気で編むときは」 映画上映会&虎岩朋加(准教授)さんによるミニ講演会 (新発田市・胎内市・聖籠町「定住自立圏男女共同参画推進事業」)
- ・7月9日～11日 インターンシップ受け入れ (新発田南高校)
- ・7月10日 ボランティア論・学習セミナー (敬和学園大学内)
- ・7月20日 くまタリアン in しばた (新発田市ヨリネスしばた)
- ・7月20日 聖籠町キッズ・カレッジ (英語教室) ① (聖籠町町民会館)
- ・7月27日 サマーフェスティバル2019 出店 (新発田市 商工振興課)
- ・8月7、9日 夏休みの自由研究に! 「水」から世界をみてみよう (新発田市イクネスしばた・敬和学園大学図書館)
- ・8月21日～23日 聖籠町わんぱくキャンプ ボランティア (胎内市)
- ・8月23日 城下町新発田まつり 市街地花火 出店 (新発田城址公園)
- ・8月27日 城下町新発田まつり 民謡流し参加 (新発田市)

【後期】

- ・10月24日 ふれあいバラエティ (近隣福祉施設対象、敬和学園大学内)
- ・10月26、27日 敬和祭 (敬和学園大学内)
- ・10月31日～11月4日 全国うまいもん横丁 (新発田市カルチャーセンター)
- ・12月21日 クリスマスイベント (新発田市イクネスしばた)
- ・12月7日 聖籠町キッズ・カレッジ (英語教室) ② (聖籠町町民会館)

- ・ 2月16日 防災脱出ゲーム「ニゲルネス」(新発田市ヨリネスしばた)
- ・ 2月22日 大人の嗜み「日本酒」を始めよう(新発田市イクネスしばた、菊水酒造)

【通年】

- ・ 日本語を母語としない子どもへの学習支援 J スクール (新発田市国際友好の会)
- ・ 認知症カフェ しゃんしゃん (新発田市南包括支援センター)
- ・ 阿賀北ロマン賞
- ・ ラジオ番組「あおぞらボンバー」(10月から「敬和キャンパスレポ」に番組変更)(エフエムしばた)
- ・ 新発田市児童センター ボランティア (新発田市)
- ・ 10代の居場所カフェ ボランティア (イクネスしばた)
- ・ 新発田市内除雪作業 ボランティア ※小雪のため活動なし
- ・ 富塚・のぞみの里 ボランティア
- ・ 少年野球 グラウンド貸し出し (新発田リトルシニアリーグ)
- ・ 新発田市児童センター (ゼミボランティア含む)
- ・ 教育体験活動 (外ヶ輪小学校)

(7) オープンカレッジ等主な行事

〈2019年度オープンカレッジ〉

日 程	演 題	講 師	参加者数
新発田市会場 会場：イクネスしばた			
10月18日(金)	教育と社会を紡ぐソーシャルビジネスの可能性	堀野亘求 准教授 渡邊安之 (株)花安新発田斎場 常務取締役 市川輝雄 NPO五十公野山森づくりボランティアの会	63名
10月29日(火)	新潟で学ぶ「情報メディア」：ドキュメンタリーとアニメで考える	一戸信哉 教授 松本 淳 准教授	20名
聖籠町 キッズ・カレッジ 「子ども英語教室」 会場：聖籠町町民会館			
7月20日(土)	英語で遊ぼう！(その1)	大岩彩子 特任講師 英語文化コミュニケーション学科学生	15名
12月7日(土)	英語で遊ぼう！(その2)	大岩彩子 特任講師 英語文化コミュニケーション学科学生	16名
8月24日(土)	子ども陶芸教室(型づくり)	趙 晤衍 教授	14名
9月7日(土)	子ども陶芸教室(絵付け)	趙 晤衍 教授	14名
そ の 他			
4月12日(金)	新入生歓迎公開学術講演会「AI時代のリベラルアーツ」	小河 陽氏 (立教大学名誉教授、前関東学院院長)	247名
5月18日(土)	英検2級 一次・二次試験対策 英語集中講座	主濱祐二 准教授	24名
5月18日(土)	英検準2級 一次・二次試験対策 英語集中講座	上野恵美子 非常勤講師	27名

9月21日（土）	英検2級 一次・二次試験対策 英語集中講座	大岩彩子 特任講師	35名
9月21日（土）	英検準2級 一次・二次試験対策 英語集中講座	金山愛子 教授	39名
3月 1日（日）	第12回「阿賀北ロマン賞」授賞式	新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期（開催日未定）	—

Ⅲ. 教員・職員研修会

1. 法人 高等学校・大学合同研修会

6月29日(土) 於：敬和学園大学 理事、監事、大学・高校教職員 103名

主 題 「大学の目指す人間教育—更なる連携のために」

第1部 開会礼拝

第2部 大学紹介

(1)研究紹介 「募金のルーツ～ユダヤ教の貧困者救済制度から～」

共生社会学科教授 田中利光

(2)学科紹介 山崎由紀 英語文化コミュニケーション学科長

富川 尚 国際文化学科長

趙 晤衍 共生社会学科長

第3部 高大連携報告 岩原寅太郎 高等学校教頭

川又正之 大学教務部長

第4部 分団協議

11月30日(土) 於：敬和学園高等学校 理事、監事、大学・高校教職員 111名

主 題 「敬和の道のりとこれから」

第1部 開会礼拝 「敬和がわたしにもたらしたもの」

宇野 緑 敬和25回生、

恵泉女学園大学キリスト教教育主任・助教授

第2部 発題「高校が大事にしてきたもの」

(1)国際的な視野に立つ教育～アメリカ海外教室 齋藤正幸 教諭

(2)平和教育～英語特講・ヒロシマ碑めぐり 菅原只行 教諭

第3部 分団協議

2. 大学

7月24日(水) コンプライアンス・研究倫理研修会 教職員 28名

7月31日(水) FD・SD研修会 教職員 48名

「大学評価、内部質保証の概要と点検・評価報告書の作成方法」

講師(公財) 大学基準協会評価研究部 松坂顕範氏

8月27日(火) SD研修会 職員 26名

「メンタルヘルス改善意識調査(MIRROR)結果を踏まえた業務改善について」

- 2月7日（金） FD・SD研修会 教職員 62名
「障害学生支援と合理的配慮～全教職員でどう向き合うか～」
講師 京都大学学生総合支援センター障害学生支援ルーム
船越高樹 特定准教授
- 2月20日（木） FD・SD研修会 教職員 18名
「北九州市立大学における地域連携の取組について」
講師 北九州市立大学 坂本毅啓 准教授

IV. 当期に行った主な新規事業

1. 大 学

(1) 学生寮 (2016年4月開設、寮生39人、充足率97.5%)

収入	寮費用収入 (総額表示)	22,821千円
	新発田市からの補助金	12,000千円
支出	寮補助活動費 (総額表示)	37,763千円
	人件費 (寮監ほか)	1,944千円
	寮施設設備減価償却額	1,675千円
	学バス増便分	4,332千円

(2) 学生支援センター運営費 340千円

(3) 学長裁量費関係

アクティブラーニング活動費4件分 838千円

2. 高等学校

(1) 生徒納付金改定

- ・授業料、施設充実費、給食費 月額1千円値上
- ・特別施設維持費 月額300円値上

V. 当期に行った主な施設設備の整備状況

1. 大 学

(1) E21～24 教室空調設備GHP入替	9, 198千円
(2) 図書館閲覧用パソコン20台入替 (後援会からのご支援)	3, 814千円
(3) 図書館・事務室ファンコイルユニット更新工事	2, 724千円
(4) 図書館書架増設	459千円
(5) 証明書自動発行機入替	6, 771千円
	(5年リース、本年度支払額 790千円)
(6) 体育館トレーニングルームランニングマシン (後援会からのご支援)	847千円
(7) 学内無線LAN環境改善	
ラーニングコモンズ (後援会からのご支援)	140千円
栄光館ピロティ	206千円
(8) 非常用階段避難車 (災害時搬出用具)	234千円
(9) PBX電話交換機入替	6, 940千円
	(7年リース、本年度支払額 578千円)
(10) 事務局パソコン25台入替	5, 229千円
	(5年リース、本年度支払額 784千円)
(11) 食堂厨房カウンターサッシ改修	1, 408千円
(12) 進入路街路灯取替工事	389千円

2. 高等学校

(1) スクールバス 1台入替	11, 872千円
(2) 寮浴室改修工事	5, 292千円
(内訳) 大望館	4, 266千円
みぎわ館	1, 026千円
(3) 各所エアコン設置	4, 212千円
(内訳) 寮4館事務室	2, 737千円
黎明館聖書科準備室	804千円
黎明館応接室	671千円
(4) 創生館樹海、田園教室イス	2, 492千円
(5) 家庭科ガスコンロ入替	2, 376千円
(6) グランド整備工事	1, 512千円

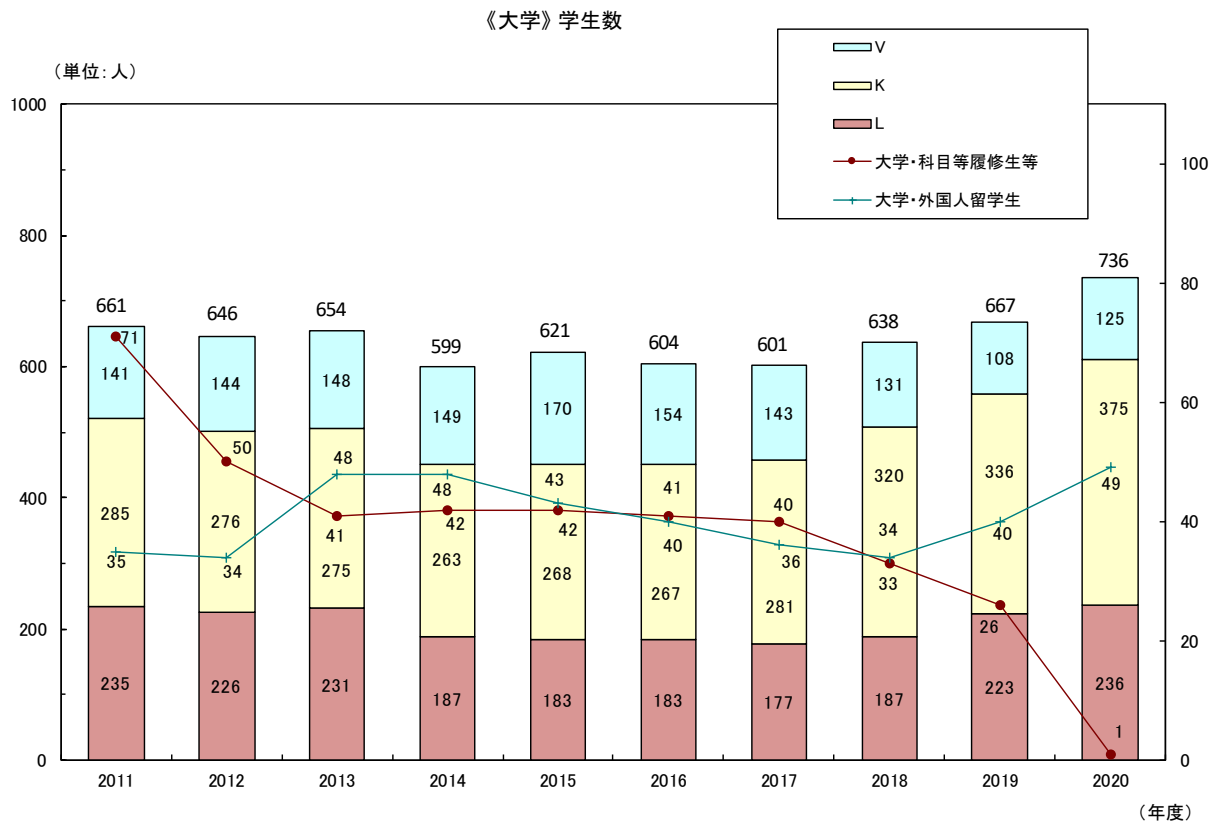
VI. 学生数・教職員数等及び財務比率の推移

(学生数・教職員数等は各年度の5月1日現在)

《大学部門》

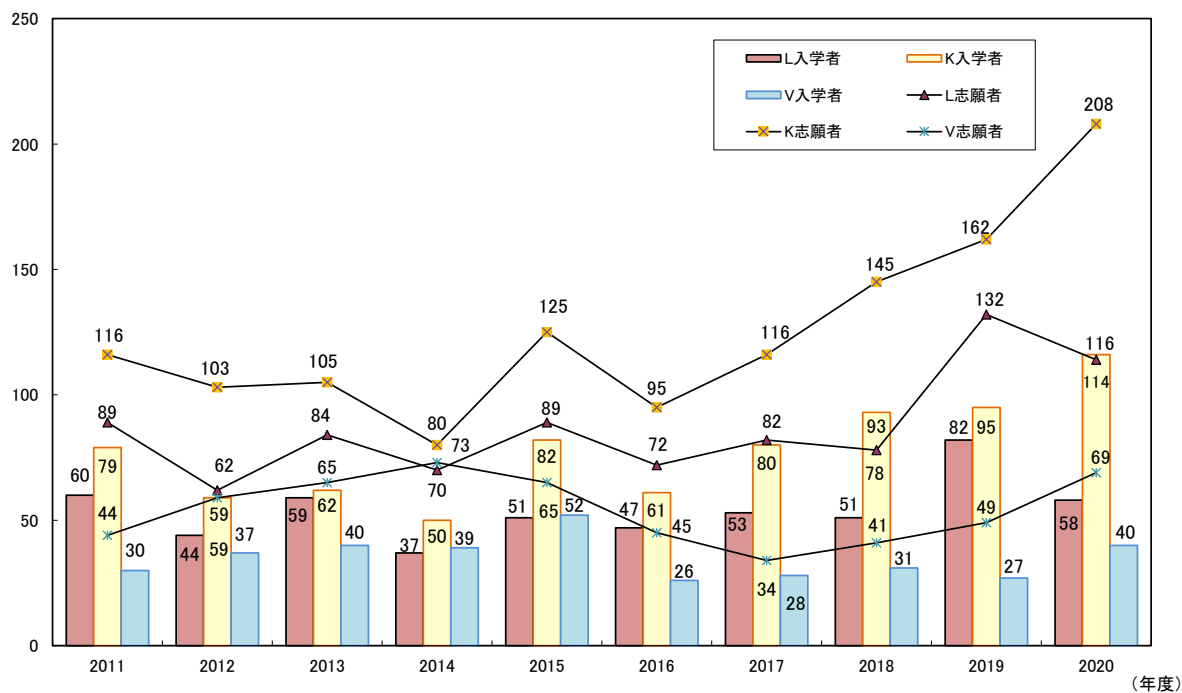
L = 英語文化コミュニケーション学科

K = 国際文化学科 V = 共生社会学科



《大学》志願者数と入学者数

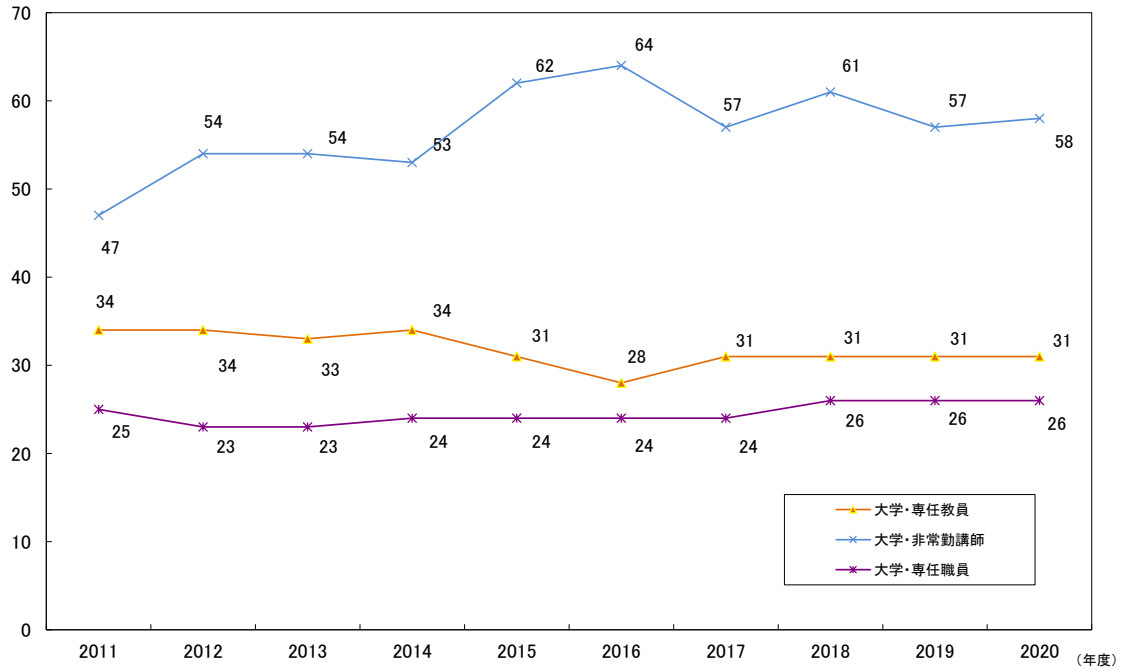
(単位:人)



《大学部門》

《大学》教職員数の推移

(単位:人)



2015－2019年度決算 事業活動収支計算書関係比率

《法人全体》

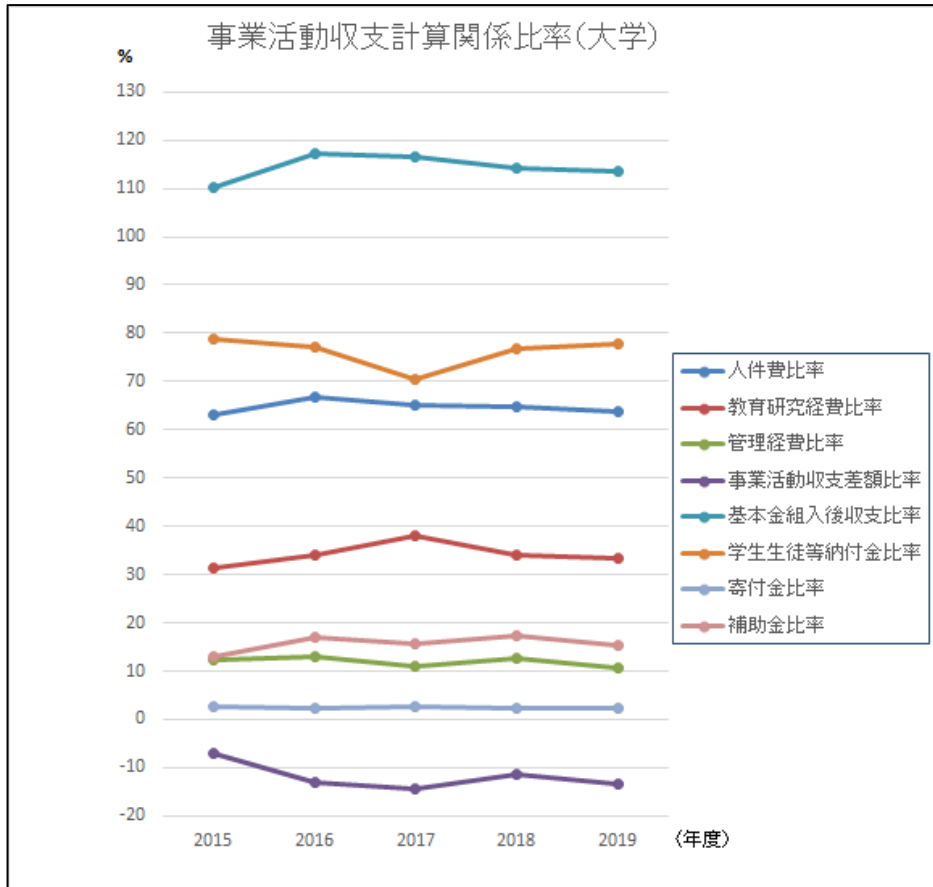
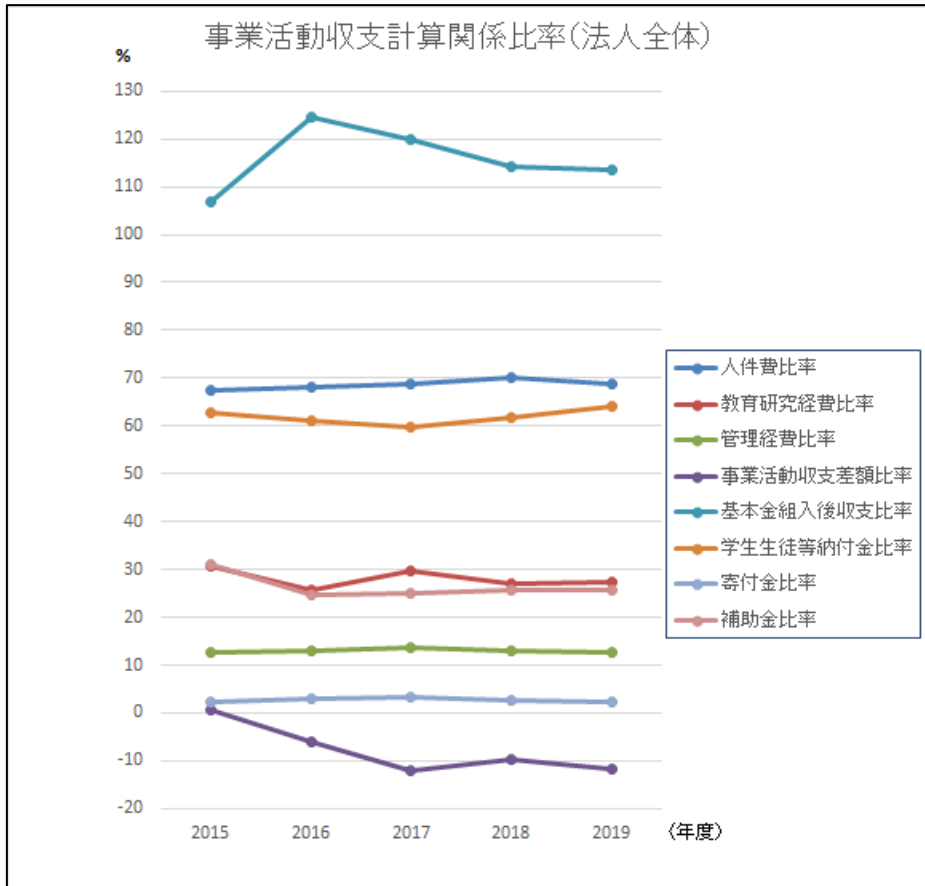
比率名・算出方法		法人全体				
		2015	2016	2017	2018	2019
1 人件費比率 ▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	67.6 %	68.1 %	68.8 %	70.1 %	68.7 %
2 人件費依存率 ▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	107.9 %	111.7 %	115.3 %	113.7 %	107.1 %
3 教育研究経費比率 △	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	30.6 %	25.7 %	29.7 %	27.1 %	27.4 %
4 管理経費比率 ▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	12.5 %	13.1 %	13.6 %	13.0 %	12.6 %
5 借入金等利息比率 ▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.2 %	0.2 %	0.1 %	0.2 %	0.1 %
6 事業活動収支差額比率 △	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	0.6 %	-6.1 %	-12.0 %	-9.8 %	-11.8 %
7 基本金組入後収支比率 ▼	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	106.9 %	124.7 %	119.8 %	114.3 %	113.7 %
8 学生生徒等納付金比率 ～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	62.7 %	61.0 %	59.7 %	61.7 %	64.1 %
9 寄付金比率 △	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	2.3 %	3.0 %	3.3 %	2.5 %	2.2 %
經常寄付金比率 △	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	2.5 %	2.9 %	3.1 %	2.3 %	1.7 %
10 補助金比率 △	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	31.0 %	24.8 %	25.0 %	25.6 %	25.7 %
經常補助金比率 △	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	22.9 %	24.1 %	24.8 %	25.4 %	25.8 %
11 基本金組入率 △	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	7.1 %	14.9 %	6.5 %	4.0 %	1.7 %
12 減価償却額比率 ～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	9.1 %	9.1 %	8.6 %	9.2 %	9.8 %
13 經常収支差額比率 △	$\frac{\text{經常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-11.0 %	-7.2 %	-12.5 %	-10.5 %	-8.9 %
14 教育活動収支差額比率 △	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-11.6 %	-7.5 %	-12.9 %	-10.7 %	-9.0 %









※比率の高低の評価は次のとおり。 △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い ～ どちらとも言えない

《大学部門》

比率名・算出方法		大 学				
		2015	2016	2017	2018	2019
1 人件費比率 ▼	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	63.0 %	66.7 %	65.1 %	64.9 %	63.8 %
2 人件費依存率 ▼	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	80.0 %	86.5 %	92.2 %	84.6 %	82.1 %
3 教育研究経費比率 △	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経 常 収 入}}$	31.4 %	34.1 %	38.0 %	34.0 %	33.3 %
4 管理経費比率 ▼	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	12.4 %	13.1 %	11.1 %	12.6 %	10.5 %
5 借入金等利息比率 ▼	$\frac{\text{借 入 金 等 利 息}}{\text{経 常 収 入}}$	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
6 事業活動収支差額比率 △	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	-7.1 %	-13.0 %	-14.4 %	-11.3 %	-13.5 %
7 基本金組入後収支比率 ▼	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	110.3 %	117.2 %	116.6 %	114.2 %	113.6 %
8 学生生徒等納付金比率 ～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経 常 収 入}}$	78.8 %	77.0 %	70.6 %	76.7 %	77.7 %
9 寄付金比率 △	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	2.6 %	2.3 %	2.8 %	2.2 %	2.3 %
經常寄付金比率 △	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経 常 収 入}}$	2.5 %	2.2 %	2.8 %	2.1 %	1.7 %
10 補助金比率 △	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	13.1 %	17.0 %	15.8 %	17.2 %	15.4 %
經常補助金比率 △	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経 常 収 入}}$	13.1 %	16.3 %	15.8 %	17.3 %	15.5 %
11 基本金組入率 △	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	3.0 %	3.5 %	1.8 %	2.5 %	0.1 %
12 減価償却額比率 ～	$\frac{\text{減 価 償 却 額}}{\text{経 常 支 出}}$	7.2 %	6.5 %	5.8 %	6.6 %	6.8 %
13 經常収支差額比率 △	$\frac{\text{経 常 収 支 差 額}}{\text{経 常 収 入}}$	-7.0 %	-14.0 %	-14.3 %	-11.5 %	-7.6 %
14 教育活動収支差額比率 △	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-8.4 %	-14.9 %	-15.2 %	-12.2 %	-7.9 %

※比率の高低の評価は次のとおり。 △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い ～ どちらとも言えない



	人件費比率	▼低い値がよい
	教育研究経費比率	△高い値がよい
	管理経費比率	▼低い値がよい
	事業活動収支差額比率	△高い値がよい
	基本金組入後収支比率	▼低い値がよい
	学生生徒等納付金比率	～どちらとも言えない
	寄付金比率	△高い値がよい
	補助金比率	△高い値がよい

学校法人敬和学園

2019年度事業報告書

2020年6月25日発行

学校法人 敬和学園

〒957-8585 新潟県新発田市富塚字三賀境 1270 番地

電話 0254-26-3636 FAX 0254-26-3646